

令和4年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況点検及び評価

宮城県教育振興基本計画

～志を育み、復興から未来の創造へ～

目指す姿

学校・家庭・地域の強い絆のもとで、多様な個性が輝き、ふるさと宮城の復興を支え、より良い未来を創造する高い志を持った、心身ともに健やかな子供が育っています。

そして、人々が生きがいを持って、生涯にわたり、多様に学び、交流する中で、豊かな文化と活力のある地域社会が形成されています。

目標

- 1 自他の命を大切にし、高い志と思いやりの心を持つ、心身ともに健やかな人間を育む。
- 2 夢や志の実現に向けて自ら学び、自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む。
- 3 ふるさと宮城に誇りを持ち、東日本大震災からの復興、そして我が国や郷土の発展を支える人間を育む。
- 4 学校・家庭・地域の教育力の充実と連携・協働の強化を図り、社会全体で子供を守り育てる環境をつくる。
- 5 生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる地域社会をつくる。



◆ 大河原町教育振興基本計画 ◆

「笑顔」「元気」「学び」

～志を高め 学び継ぐ ひとつづくり～



大河原町の教育振興を図るためには、地域・家庭・学校・行政がそれぞれの役割を担いながら、連携・協働し、それぞれの世代や立場に必要な人材を育成していく「ひとつづくり」が不可欠になっています。

そのために大河原町教育振興基本計画では、全ての町民が、「笑顔」で「元気」に「学び」続けられる町を目指し、「生涯学習の姿」「家庭・地域の姿」「子供の姿」「学校・教職員の姿」と対象を明確にするとともに、「ひとつづくり」の実現に必要な施策と具体策・目標値を示しています。これにより教育関係者ならびに、広く町民の理解と協力を仰ぎ、共に学び・高め合うことをねらいとしています。

◆ 目指す姿

1. 生涯学習の姿 生き生きと学ぶ町民
2. 家庭・地域の姿 明るい家庭 支える声が響く地域
3. 子供の姿 笑顔があふれ、元気いっぱい、学力を向上させる子供
4. 学校・教職員の姿 信頼される学校・教職員

◆ 教育委員会の充実

2015年4月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正」により、大河原町では2016年度に「新しい教育委員会制度」がスタートしました。このことにより教育委員会は、さらなる教育の政治的中立と教育行政の安定性を確保し、多様化している町民のニーズに応えながら教育・文化の振興に努めるとともに、会議の公開など、開かれた教育委員会をいっそう推進します。

また、教育委員会事務局においては、教育行政における基本方針や重点施策をふまえ、家庭・地域・学校への支援や教育環境の整備・充実に取り組みます。さらに、事務の管理及び執行状況の点検・評価を的確に実施し、常に改善に努め、信頼される教育行政を実現します。

大河原町の教育の基本的方向と令和4年度重点的取組

1. 生涯学習の姿 【目標】生き生きと学ぶ町民

◆基本的方向1 持続可能な生涯学習の拠点整備

施 策

- (1) 町民が生涯にわたり楽しく学べる環境づくり
- (2) 「誰でも、いつでも」学べるセーフティネットの推進（学習拠点・居場所づくり）
- (3) 公民館・図書館等を活用した学習拠点づくり

主な具体策

- ①中央公民館を起点とした「にぎわい創出」の事業展開
- ②「絵本と学びのへや」を中心とした図書館事業展開
- ③「放送大学」を活用した、生涯にわたって学び続ける機会の提供
- ④金ケ瀬公民館を拠点とした金ケ瀬地区の未来型コミュニティづくり

令和4年度重点的取組

施 策	(3) 公民館・図書館等を活用した学習拠点づくり
主な具体策	①中央公民館を起点とした「にぎわい創出」の事業展開 ④金ケ瀬公民館を拠点とした金ケ瀬地区の未来型コミュニティづくり
目的・目標	・中央公民館と金ケ瀬公民館を拠点とし、町民の教養向上だけではなく、人材育成からの地域の活性化、更には子供の学力向上及びコミュニティづくりにつなげていく。
重点的取組	・中央公民館と金ケ瀬公民館で、町内小中学生に学習機会を提供し、学習指導による学力の向上及び子供の話し相手としてのサポートを図る。 (土曜子供塾)

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2022年度)	目標値 (2022年度)
1	「生涯学習の充実」に対する満足度（5段階評価）	3.1	3.4	3.5
2	中央公民館年間来館者数	30,435人	14,139人	33,500人
3	金ケ瀬公民館年間来館者数	11,084人	7,033人	12,200人
4	貸出資料数	70,025点	70,249点	75,000点
5	「絵本と学びのへや」年間来館者数	—	10,682人	15,000人
6	放送大学利用者数	—	85人	300人

<p>成果 課題等</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の新規事業として、中央公民館、金ヶ瀬公民館で「土曜子供塾」を開講し、小学5年生から中学3年生の学習機会の提供に努めた。児童生徒は、教科書や問題集を持参し、自学自習を行ない、分からない問題がある時はコーディネーターの先生や大学生に教えてもらい、学力向上を図った。 ※受講者数〔中公:小12人、中11人〕・〔金公:小3人、中4人〕 (中学3年生の参加者は全員志望校に合格) 公民館主催事業として「わくわく親子昆虫教室」「おおがわら歴史学講座」など町民の教養向上に資する講座の開催や、絵本と学びのへやを利用して「お話し会」など子どもの心の成長などの事業展開に努めた。 新たに「金ヶ瀬中学校吹奏楽部・合唱団オータムコンサート」を主催し、地域の活性化、コミュニティづくりに努めた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 未就学児から高齢者まで生涯にわたり学ぶことができる環境の構築が必要であるとともに、新たな仲間づくりの輪を広げる場が求められている。 事業運営のボランティアの応募者は少数にとどまっており、ボランティアの継続と育成は課題である。 								
<p>内部評価</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="341 949 496 999">A</td> <td data-bbox="496 949 1402 999">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="341 999 496 1048">B</td> <td data-bbox="496 999 1402 1048">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="341 1048 496 1097">C</td> <td data-bbox="496 1048 1402 1097">目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="341 1097 496 1144">D</td> <td data-bbox="496 1097 1402 1144">目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
<p>外部評価</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇学力向上やいじめ、不登校等の課題がある中で、新規事業として「土曜子供塾」を中央公民館、金ヶ瀬公民館で、更に「金ヶ瀬中学校吹奏楽部・合唱オータムコンサート」を立ち上げ、町を挙げて果敢に取り組もうとする、強い意気込みを感じます。 ◇中学3年生の参加者が全員志望校に合格したことは、「土曜子供塾」の大きな成果であると考えます。 □金ヶ瀬公民館で新たな主催事業が実施されたことは素晴らしい。今後さらに金ヶ瀬地域の活性化、コミュニティづくりが図れるよう期待している。 □「土曜子供塾」は、児童生徒の学習の機会・場の一つとしてよい取り組みである。今後受講者数増加に努めてほしい。 □目標値には達しなかったものの、「絵本と学びのへや」の来館者数が一万人を超えたことは喜ばしい。今後さらに「お話し会」の様子などもお知らせし、来館者数増加に努めてほしい。 ■放送大学の利用者数が徐々に増えてはきているが、目標値との差がかなり見られる。町民の認知度を高め利用者数増加に一層努めてほしい。 								

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

◆基本的方向 2 伝統文化・芸術活動等の推進

施策

- (1) 文化財や伝統文化等の保存・継承
- (2) 芸術文化に親しめる環境づくり

主な具体策

- ⑤文化財の適切な保護と普及啓発のための事業推進
- ⑥無形文化財保持団体の活動の場の拡大
- ⑦えずこホールとの連携による芸術文化事業の推進

令和4年度重点的取組

施策	(1) 文化財や伝統文化等の保存・継承
主な具体策	⑤文化財の適切な保護と普及啓発のための事業推進 ⑦えずこホールとの連携による芸術文化事業の推進
目的・目標	・町内の自然、風土、歴史、文化的遺産等の文化財を未来の子供たちに継承するとともに、貴重な学習資源ととらえ、学校の体験学習・調べ学習等、幅広い教育活動に活用する。
重点的取組	・文化財や伝統文化等の保存、継承と整備を行い、積極的に活用促進を図る。(石碑マップ作成、古文書解読講座開催) ・文化財保護委員の協力を得ながら、文化財の保存・活用に向けて検討していく。 ・かおり高い文化芸術を身近に鑑賞する機会を提供し、地域の文化芸術の振興を図る。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2022年度)	目標値 (2022年度)
1	「文化・芸術の振興」に対する満足度(5段階評価)	3.3	3.5	3.5
2	民俗資料収蔵室年間来館者数	66人	令和3年福島沖地震による危険建物判定のため解体	20%増加
3	芸術文化事業 青少年小劇場・青少年劇場小公演の実施	実施	実施	継続して実施

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北大学東北アジア研究センターの協力の下、町内の旧家や町教育委員会所蔵の古文書の調査、研究を行い、歴史資料の保存に努めるとともに、所蔵品を活用して「初めての古文書解読講座」「文化財パネル展」を新たに開催し、文化財の継承や周知広報に努めた。 ・「大河原町の古碑・石碑マップ」を作成し、町民に配布するとともに、「歩いて石碑めぐり」を開催し、石碑を訪ね、郷土の文化財について関心を促し啓発を図った。 ・文化芸術を身近に鑑賞する「青少年劇場小公演(小中学生):サクソフォンとピアノのコンサート」を開催し、生の音楽芸術体験の機会を提供し、青少年の豊かな人間形成を図った。
-----------	---

	<p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民俗資料収蔵室の解体により町民が町の歴史を学ぶ場を失った。新たに、収蔵品を公開する施設整備が求められている。 ・文化財の保存、伝承の取り組みには、地域の歴史を伝える「文化財講演会・文化財パネル展・収蔵品の展示企画展・史跡めぐり」、また、佐藤屋プロジェクトと連携した企画展を計画し集客を意識した伝承活動を図り、文化財への関心と郷土愛を育む取り組みを行う。 ・圏域文化活動の中心となる仙南芸術文化センターの運営、施設管理、維持機能修繕への負担額が増加している。えずこホールの企画する住民グループ支援、体験事業、鑑賞事業の周知を図り、町民の文化芸術推進を図る。 	
内部評価	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価	<p>◇昨年からの課題であった古文書に触れる機会「古文書解読講座」を新たに企画されたことは、今後、大河原町民が町の歴史に関心を高めていく、大きなきっかけになりました。</p> <p>◇「歩いて石碑めぐり」をすることで、町民が足を動かし、文化財に直接触れ、歴史を肌で感じることにつながり、更に心身共に健康になる町づくりに貢献する、素晴らしい活動です。</p> <p>◆文化財を展示し、町の歴史を学び、大河原町の歴史的意義を確認する建物の設置が必要であります。是非ご検討願います。</p> <p>□東北大学東北アジア研究センターの協力の下、古文書の調査、研究、保存に努めるとともに、新規の講座や企画展を開催し、町民の町文化財に触れる機会の提供ができたことを大いに評価する。</p> <p>□古碑・石碑マップを作成し、町民に配布するとともに、マップを活用した事業を開催したことは大変素晴らしい。</p> <p>■解体された民俗資料収蔵室にかわる、町民が町の歴史を学ぶ場の確保を計画的に進めてほしい。</p>	

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

◆基本的方向3 スポーツ振興による健康増進の推進 施策

- (1) スポーツ、レクリエーション活動による健康づくり
- (2) 総合型地域スポーツクラブ設立に向けての取組

主な具体策

- ⑧総合型地域スポーツクラブ設立に向けての取組
- ⑨町民レクリエーション大会の実施
- ⑩夏休み小学生スポーツ大会の実施
- ⑪大河原クロスカントリー大会の実施
- ⑫地域コミュニティ強化のための行政区スポーツレクリエーション活動奨励事業の補助金交付

- ⑬スポーツ少年団の育成と活動の支援
- ⑭学校体育施設開放と活用の推進
- ⑮体育施設の効率的な維持・管理
- ⑯体育協会の活動支援

令和4年度重点的取組

施 策	(1) スポーツ, レクリエーション活動による健康づくり
主な具体策	⑮体育施設の効率的な維持・管理
目的・目標	スポーツ施設の安全で快適な環境づくりを進め, 町民のスポーツ活動の推進を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進む総合体育館の建物・設備の効率的かつ計画的な修繕を進めるため, 専門家による施設の劣化調査を行い, 修繕計画の策定を行う。 ・白石川右岸河川敷にパークゴルフ場の整備を行い, 町民の健康づくり及び世代間・地域間交流の拠点づくりを行う。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017 年度)	達成値 (2022 年度)	目標値 (2022 年度)
1	「スポーツの振興」に対する満足度 (5段階評価)	3. 3	3. 3	3. 5
2	体育施設 (総合体育館及び東部運動場) の年間利用者合計	1 1 6, 0 5 8 人	8 6, 9 5 7 人	1 2 2, 0 0 0 人
3	学校開放の年間利用団体合計	6 4 団体	5 6 団体	7 0 団体

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成から 30 年が経過し, 雨漏りの発生など施設の老朽化が顕著となっている総合体育館について, 建物の劣化調査を行い, 修繕計画を策定した。 〔主な修繕: R5 雨漏り, R6 アリーナ電動ブラインド, R7 外壁, R8 屋上防水〕 ・スポーツを中心とした町民の健康促進につながるよう, 白石川右岸河川敷等整備事業基本計画に基づき, 大河原町パークゴルフ場を整備した。 工事費 1 億 3, 949 万 4, 300 円 / 4 コース 36 ホール L = 1, 679m / 付帯施設: 散水栓, 防球ネット, トイレ 2 基, 管理棟 2 棟, 案内看板 ・スポーツ庁所管の全国のスポーツによるまちづくりを応援する優良自治体表彰に応募し, 「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰 2022」を受賞した。全国を先導する優良な「スポーツ・健康まちづくり」に取り組んでいる自治体のアイデアを表彰するとともに, 全国へ周知することで特色あるまちづくりを推進するもの。「千本桜スポーツパークを活用した Well - Being なまちづくり」の実現に向けての取組みを行っている。令和 5 年度から, スポーツ部門を教育委員会から町長部局に移管する条例等の整備を行い, 「スポーツまちづくり推進課」に引き継いだ。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Well - Being なまちづくりを推進するため, スポーツ意識の普及, 身体を動かす活動, スポーツに触れる機会を増やすことが求められている。 ・スポーツ施設を利用した各種事業に加え, おおがわら千本桜スポーツパークを利用した, 賑わいづくり, 健康づくりの事業展開が求められている。 ・スポーツ施設の指定管理について, 効果的かつ適切な施設運営が求められている。
-------------------	--

内部評価	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価	<p>◇町として推進して来た「スポーツ・健康まちづくり」が認められ、スポーツ庁から表彰されたことは、最高の栄誉であり、町民として誇らしく思います。</p> <p>◇広々とした場所で運動できる場所が欲しかったところ、白石川右岸にパークゴルフ場が整備され、長年の念願が叶い嬉しい気持ちでいっぱいです。今後は、有効に活用するため、「スポーツまちづくり推進課」のリーダーシップに期待します。</p> <p>◆総合体育館の大規模改修が、最大の課題です。年次計画を立て、財政の見直しをもって着実に取り組んでください。</p> <p>□スポーツ・健康まちづくり優良自治体として表彰を受けたことは素晴らしい。スポーツ部門は移管されたものの、スポーツ施設の利用充実、スポーツパークの賑わいづくり、健康づくりに今後も努めてほしい。</p> <p>■利用者数が徐々にコロナ禍前に戻りつつあるのは嬉しいことである。ただ、目標値とかなり開きがあるので今後一層の工夫を期待している。</p>	

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

2. 家庭・地域の姿 【目標】明るい家庭 支える声が響く地域

◆基本的方向4 学校・家庭・地域との協働による教育の推進

施策

- (1) 地域学校協働活動，コミュニティ・スクール体制の構築
- (2) 各種団体等と連携した地域で子供を育てる体制づくり

主な具体策

- ⑰コミュニティ・スクール構築に向けた，学校教育支援の推進
- ⑱ボランティアバンクの再整備とよりよい運用
- ⑲放課後子供教室事業による子供の居場所づくりの推進
- ⑳地域学校協働本部体制の構築 ⇒ 学校教育との連携
- ㉑子ども会育成会連絡協議会の活動支援

令和4年度重点的取組

施策	(1) 地域学校協働活動，コミュニティ・スクール体制の構築
主な具体策	⑰コミュニティ・スクール構築に向けた，学校教育支援の推進 ⑳地域学校協働本部体制の構築
目的・目標	・町内小・中学校全てでコミュニティ・スクールを設置するため，学校運営協議会と地域学校協働本部の連携体制を強化していく。
重点的取組	・地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの連携を図るとともに，目的の共有化，広報，普及活動に努める。 ・学校支援ボランティア登録者の活動場面の設定と新規登録の拡充促進を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携担当教職員との連携強化を図り、関係部局・機関等とのネットワーク化を促進する。 ・地域学校協働本部の継続的かつ自立的な事業運営に努める。
--	---

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2022年度)	目標値 (2022年度)
1	地域学校協働本部の設立	—	2020年度設立	2021年度 までに設立
2	新ボランティアバンク設立	—	2018年度より 運用	2018年度 より運用
3	ボランティアバンク登録者数 (個人・団体)	206名	個人:55人 団体:3団体	300名
4	コミュニティ・スクール体制の 確立	—	5校	5校
5	放課後子ども総合プランの推進	2校 (南小・金小)	2校 (南小・金小)	3校 (全小学校)

成果 課題等	《成果》	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部として、ネットワーク会議を開催し、各学校のコミュニティ・スクールとの連携を図っている。ネットワーク会議では、東北大学災害科学国際研究所 佐藤教授を講師に迎え、地域防災力向上を図る研修会を実施し、家庭、地域、関係機関等との連携、協働による学校安全の推進に取り組んでいる。 ・中学校と連携して「職場体験学習」「職業人に聴く会」の開催では、地域の受入れ可能事業所の調整を図り、地域との協働教育に努めている。 ・学校支援ボランティアの活動については、コロナ禍により支援回数は減となっているものの、学校からの依頼内容により活動を行っている。また、生涯学習課では継続してボランティアの受け入れを行っている。 	
内部評価	《課題》	
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域住民の当事者意識、学校の協働意識の高揚を図るため、目標の共有に繋がる対話の場、連携の場の取り組みを図る。 ・学校支援ボランティア活動に向け、各学校の現状把握と地域ボランティアの個人並びに団体の確保、支援が必要となっている。 	
C	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った

外部評価	<p>◇地域との連携が困難を極める環境の中で、地域学校協働活動事業を継続し、取り組まれた努力を評価します。</p> <p>◇中学校が主体となって「職場体験」「職業人に聴く会」を企画するのは普通にありますが、そこに、小学校も入り、連携することは、容易なことではありません。その艱難を乗り越え地域との協働に努めた成果は大きいものがあります。</p> <p>◆学校、オヤジの会、NPO、行政地区代表等を含めた更に大きな組織を立ち上げ、中学校の部活支援も視野に入れた取り組みを期待します。</p> <p>□町内5校全てにおいて、コミュニティ・スクール体制が確立されたことは素晴らしい。今後、地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの連携を図り、目的の共有化などに努めてほしい。</p> <p>□ネットワーク会議で、東北大学の教授を講師として、地域防災力向上を図る研修会を実施できたことは素晴らしい。今後研修を生かした取り組みを期待している。</p> <p>■小学校3校全てで放課後子ども総合プランが作成推進され、放課後の安全で充実した子供の居場所づくりが構築されることを願っている。</p>
B	

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

◆基本的方向5 家庭・地域の学びや活動の支援
施 策

- (1) 家庭教育、子育て世代等の学び支援
- (2) 各種関係機関と連携した支援体制の整備

主な具体策

- ②学校や保育園、幼稚園等を対象とした家庭教育講座の開催
- ③駅前図書館を利用した家庭教育支援事業
- ④家庭教育支援ネットワーク本部(仮)の創設
- ⑤子育てサポーター、家庭教育支援チームの活動の場の拡大、活動支援

令和4年度重点的取組

施 策	(1) 家庭教育、子育て世代等の学び支援
主な具体策	②学校や保育園、幼稚園等を対象とした家庭教育講座の開催 ⑤子育てサポーター、家庭教育支援チームの活動の場の拡大、活動支援
目的・目標	・子供を地域全体で育むために、家庭と地域、学校をつなぐ仕組みをつくり、協働による教育活動をとおして、家庭、地域の教育力の向上を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の小・中学校、公営認定保育園、児童施設、私立幼稚園への講座開催の連絡、周知を図る。また、希望する内容については、さまざまな分野の取組を紹介し、選択の幅を広げ、推進する。 ・子育て支援を行う、子育てサポーター養成を積極的に行い、活動支援の体制を整えていく。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2022年度)	目標値 (2022年度)
1	家庭教育講座実施数	12講座	13講座	15講座
2	大河原子育てサポーター「笑」会員数	10名	12名	15名
3	「絵本と学びのへや」での家庭教育事業	—	2講座	実施

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内保育所（園）、幼稚園、児童館、児童センター、小中学校において「子育て親育ち講座」を開催し家庭教育向上に努めた。事業終了後の参加者アンケートは、好評であり小さい子を持つ親の心に響いたようだ。また、各施設担当者からも今後も生涯学習課にお願いしたいと感謝を頂いている。 ・「子育てサポーター養成講座」は人材育成事業として重要な位置づけとしている。家庭教育や子育てに悩む親を地域全体で支援する環境づくりとして、子育てサポーターサークルの会員増を図っている。また、生涯学習ガイド等を活用したサークル会員募集の周知も行っている。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサポーターサークル「笑」との連携や活動支援を行っているが、会員の高齢化や新たな会員の確保が課題となっている。 								
内部評価	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>目標を下回った</td> </tr> </tbody> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
外部評価	<p>◇コロナ禍等のため、家庭が孤立する傾向の中、「子育て親育ち講座」の開設は、救いを求める沢山の親に、大きな励みになったと思います。だから、多くの感謝の言葉をもらったのだと思います。</p> <p>◇子育てのアドバイスが欲しい親は、沢山おります。従って、今後は、子ども家庭課等との連携も考慮し、更に充実した活動を期待します。</p> <p>□各所で「子育て親育ち講座」を開催できたことは大変素晴らしい。参加者から今後も好評を得られるような内容の充実を期待している。</p> <p>□子育てサポーター「笑」の会員数が徐々にではあるが増えてきていることは大変嬉しい。今後も会員増になるよう支援や広報に努めてほしい。</p>								

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

◆基本的方向6 地域の発展につながる多様な学びの提供

施策

- (1) 現代的かつ社会的課題に対応した社会教育事業の展開
 (2) 各種団体やボランティアの育成と活用の推進

主な具体策

- ②⑥公民館事業・教室参加者の満足度向上を目指す事業推進
 ②⑦ジュニア・リーダーの育成と活動支援
 ②⑧青年会活動への助言と活動支援
 ②⑨地域資源（人的・物的資源）を生かした昆虫展の充実
 ③⑩高齢者のための生きがいづくり事業の推進
 ③⑪町民文化祭の充実と文化協会の活動支援
 ③⑫市民団体（NPO等）との協働・活動支援

令和4年度重点的取組

施策	(1) 現代的かつ社会的課題に対応した社会教育事業の展開
主な具体策	②⑨ 地域資源（人的・物的資源）を生かした昆虫展の充実 ③⑫市民団体（NPO等）との協働・活動支援
目的・目標	地域の活動拠点としての中央公民館において、さまざまなニーズや実態を把握し、社会教育施設として機能の有効利用を図り、地域資源を最大限生かした昆虫展を開催する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> 公民館を十分に活用し、幅広い視点から昆虫展を開催し、展示会内容の充実を図り魅力発信に努める。 ノウハウと知識を持った民間団体の協力を得て、昆虫展事業を推進する。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2022年度)	目標値 (2022年度)
1	講座からの新規社会教育団体の発足	—	1団体	2団体
2	ジュニア・リーダーの会員数	18名	21名	25名
3	社会教育事業アンケート評価満足度	—	高水準	増加

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 「世界・日本の昆虫展」「昆虫の絵コンクール」については、令和4年度においてもコロナ禍での感染対策を講じての開催であった。来場者の検温、記名と、会場の入場制限をお願いしたが、入場条件への苦情はなく、昆虫を見る、触れる、学ぶを通して自然に対する興味関心を醸成することができた。 故渡部徳氏からご寄附いただいた貴重な地域資源を最大限生かし、「昆虫展」のほか、町内小中学校5校を巡回する「移動昆虫展」を開催したことで、ほとんどの児童生徒が休み時間、昼休み時間に見学してくれた。 昆虫展は、人的な地域資源である「大河原昆虫同好会会員」を講師に迎え、来場者への解説を行っていただいた。昆虫展の開催を心待ちにしていた親子も多く、企画展には満足いただけたと捉えている。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 昆虫同好会のようにノウハウと知識を持った民間団体の協力が必要である。同好会の継承基盤を確保するため、地域支援者養成の支援を行う。 昆虫展を夏休みの大人気イベントとして定着させるため、昆虫看板の作成など趣向を凝らして昆虫展を充実させる。
-----------	---

内部評価	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価	◇昨年に引き続き、「移動昆虫展」を開催したことにより、中央公民館だけで行う昆虫展に比べ、昆虫に触れる児童、生徒数が、圧倒的に多くなったことは、大いに評価されるべきことであります。	
B	◆他市町に類を見ない程の「昆虫標本」が、大河原町に存在しているので、それ等を有効に活用することで、県内でも屈指の昆虫展を企画して頂けることを期待します。	
	□「昆虫展」「昆虫の絵コンクール」、「移動昆虫展(町内小中学校5校巡回)」が大いに好評であったことは素晴らしい。次年度も展示内容や企画展の内容充実に努め、来場者の集客、満足度を高める工夫を期待している。	

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

3. 子供の姿 【目標】笑顔があふれ、元気いっぱい、学力を向上させる子供

◆基本的方向7 【笑顔】豊かな心の育成

施策

- (1) 夢を育む「志教育」の推進
- (2) 命を大切にする教育の推進(道徳教育, 防災教育)
- (3) 「共に学ぶ」特別支援教育の推進(インクルーシブ教育)
- (4) 歴史や文化に関する教育の推進
- (5) 読書活動の推進

主な具体策

- ③1/2 成人式や立志式, 職業人の話を聴く会の実施, おおがわらの先人集の活用による夢や志の育成
- ③4 「全学級道徳授業の日」の実施を核として, 「考え, 議論する道徳」と道徳的実践力の育成
- ③5 防災訓練等を通じた自助・共助の実践力の育成
- ③6 早期発見早期支援事業による適切な就学指導の充実 ・合理的配慮・基礎的環境整備
- ③7 町教員補助員によるきめ細やかな支援の充実
- ③8 おおがわらの先人集, おおがわらの暗唱読本, 社会科副読本事業の継続と改訂
- ③9 学校司書補助員, 駅前図書館, 暗唱読本を活用した「読書のすすめ」

令和4年度重点的取組

施策	(1) 夢を育む「志教育」の推進
主な具体策	③1/2 成人式や立志式, 職業人の話を聴く会の実施, おおがわらの先人集の活用による夢や志の育成
目的・目標	夢や志をもち, 将来に向かって切磋琢磨するたくましい児童生徒を育成する。

重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間や学校行事等でおおがわらの先人集を活用し、夢や志を高め、それを実現しようとする児童生徒を育てる。(キャリア・パスポート、志シートによる記録の充実) 中学生「まちづくり夢・未来会議」を開催し、次代を担う中学生に町への誇りをもたせるとともに、町づくりに参画する意識を育てる。
-------	---

施 策	(2) 命を大切に教育の推進(道徳教育, 防災教育)
主な具体策	㊸「全学級道徳授業の日」の実施を核として、「考え、議論する道徳」と道徳的実践力の育成 ㊹防災訓練等を通じた自助・共助の実践力の育成
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> 特別の教科「道徳」の授業を通じて、他者とともによりよく生きる子供を育成する。 防災・避難訓練等を通じて、自他の命を守る知識を身に付け、行動できる子供を育成する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> 特別の教科「道徳」の実施に向けた教員の指導力向上を図り、保護者や地域とともに「考え、議論する道徳」を実践する。 各学校の実状に合わせた防災安全マニュアルの見直しを行い、学校・地域に応じた防災避難訓練やボランティア組織の活用を促す。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017 年度)	達成値 (2022 年度)	目標値 (2022 年度)
1	全国調査「児童生徒質問紙」 将来の夢や目標を持っていますか。(「当てはまる」の割合) 【小6、中3対象】	小 78.3% 中 44.3% '21 年度実績 小 68.7% 中 44.9%	小 66.3% 中 46.7%	小 80% 中 50%
2	全国調査「児童生徒質問紙」 自分にはよいところがあると思いますか。(「当てはまる」の割合) 【小6、中3対象】	小 52.7% 中 21.9% '21 年度実績 小 27.0% 中 30.4%	小 41.3% 中 33.5%	小 60% 中 30%
3	就学相談体制の確立と実施	—	※就学時検診の改善	2018年度開始
4	おおがわらの先人集, おおがわらの暗唱読本, 社会科副読本の改訂	先人集('15) 暗唱読本('16) 社会科副読本('13)	'20 暗唱読本 '21 先人集 '22 社会科副読本 改訂・増刷済	暗唱読本('20) 先人集('21) 社会科副読本('23)
5	町内小中学校図書貸し出し数の増加	79,013 冊 '21 年度実績 89,703 冊	73,414 冊 (令和5年1月末) '17 年度比 7.1%減	'17 年度比 20%増加

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は、暗唱読本「寿限無」、「おおがわらの先人集」に続き、社会科副読本「わたしたちの大河原町」について改訂・増刷を完了することができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国調査「児童生徒質問紙」における「将来の夢や目標を持っていますか」との質問に対し、「あてはまる」と回答した割合は小学校で昨年度よりも更に減少し、目標を達成することはできなかった。志教育の一環として志集会や立志式、10歳のつどいなどの行事を通して、将来の夢や目標を持たせるよう指導していきたい。 年間の貸出冊数は昨年度よりも減少し、目標の20%増加とはならなかった。図書に親しむ工夫を継続したい。 								
内部評価 B	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="349 521 497 573">A</td> <td data-bbox="497 521 1402 573">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="349 573 497 624">B</td> <td data-bbox="497 573 1402 624">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="349 624 497 676">C</td> <td data-bbox="497 624 1402 676">目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="349 676 497 719">D</td> <td data-bbox="497 676 1402 719">目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
外部評価 B	<p>◇「全学級道徳授業の日」を核とした「考え、議論する道徳」を推進している意義は大きいです。継続することは、着実に力になっている証明と考えます。</p> <p>◆コロナ禍の影響を受け、「将来の夢や目標を持つ」「自分には良いところがある」の項目に減少が見られます。今後は、オープンに活動できる機会を活用し、体験を通して学べる場を徐々に増やすことで、自己肯定感が感じられるよう工夫されますことを期待します。</p> <p>□「わたしたちの大河原町」の改定・増刷の完了できたことは良かった。「寿限無」「おおがわらの先人集」とともに、今後大いに活用してほしい。</p> <p>□全国調査「児童生徒質問紙」における、自己肯定感が小中学校とも上昇してことは喜ばしい。小学校は目標値に達していないが、様々な活動を通して、一人一人の良さを見つけ認め褒めるような場面を数多く設定してきた成果と考える。今後も自己肯定感や自己有用感がもてるような働きかけを期待したい。</p> <p>■今後も学校で児童生徒が読書に親しむ機会が増え、貸出冊数も増加することを期待している。</p>								

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

◆基本的方向8 【元気】健やかな身体の育成

施 策

- (1) 「はやね・はやおき・あさごはん（ルルブル運動）」等による生活習慣の定着
- (2) 学校給食を中心とした食育の推進
- (3) 体力向上への取組の推進

主な具体策

- ④⑩「明日青のつどい」による健全育成体制の継続
- ④⑪給食センターの活用や栄養教諭による学校訪問指導による食育の充実
- ④⑫町陸上大会、部活動等を通じた体力・運動能力の向上

令和4年度重点的取組

施 策	(1) 「はやね・はやおき・あさごはん（ルルブル運動）」等による生活習慣の定着
主な具体策	④⑩「明日青のつどい」による健全育成体制の継続
目的・目標	・生活習慣の改善とともに、何事にも最後まであきらめることなく取り組むことができる「たくましい」子供の育成に努める。
重点的取組	・「明日青のつどい」や学校生活等を通じて、自他を認め合い、自己肯定感・自己有用感を高めるための取組を行う。

施 策	(3) 体力向上への取組の推進
主な具体策	④⑫町陸上大会、部活動等を通じた体力・運動能力の向上
目的・目標	・体育の授業や業間での遊び、部活動を通じて、生涯を通じて体を動かすことが好きな児童生徒を育成する。
重点的取組	・大河原小学校と仙台大学との連携を、金ヶ瀬小学校や大河原南小学校にも拡充し、効果的な体力・運動能力の向上を図るとともに、運動好きな児童生徒を育成する。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2022年度)	目標値 (2022年度)
1	全国調査「児童生徒質問紙」朝食を毎日食べていますか 【小6、中3対象】	小 85.0% 中 83.1%	小 83.7% 中 76.2%	小 90% 中 85%
2	県「学習意識調査」ゲーム・携帯時間(2時間以上)の縮減 【小5、中1対象】	小 21.9% 中 36.6% '21年度実績 小 35.4% 中 45.0%	小 45.7% 中 55.6%	小 20% 中 30%
3	給食残食量の縮減	約120kg/1日	100kg/1日 16.6%縮減	20%減

4	全国体力・運動能力テストの総合評価A・B合計の割合 全国との乖離をプラスにする	小男 -9.3 女 -5.2	小男 -4.3 女 +1.5	小 男女とも ±0
		中男 +10.4 女 +7.7	中男 -0.1 女 -0.6	中 +0以上 継続

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力テストの総合評価A・B合計の割合については、小学生女子以外は目標には達しなかったが、2017年度と比較して小学生が男女とも総合評価の割合の上昇が見られた。 ・給食残量の目標値は達成できなかったが、改善傾向が見られる。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム・携帯を2時間以上使用している児童生徒の割合が年々増加し、小中学生の約半数前後に及んでいる。家庭の協力を得ながら、子供たちに家庭での過ごし方について考えさせる指導を継続する必要がある。 		
内部評価	A	目標を上回って達成した	
C	B	目標をほぼ達成した	
	C	目標をやや下回った	
	D	目標を下回った	
外部評価	<p>◇仙台大学との連携が、大河原小学校だけでなく、金ヶ瀬小学校、大河原南小学校にも拡大させる企画が素晴らしいです。その結果、小学校の総合評価の上昇に進展したものと考えられます。</p> <p>◆ゲーム・携帯(スマホ)を2時間以上使用することは、必ずしも悪いことだけではないものと思います。従って、今後は、目の保護の方法、フィルタリング等、使用方法についての学習の機会を設け、有効活用法と使用時間の両面から考え、児童生徒に議論の場(明日青のつどい)等で話し合わせたら如何でしょうか。</p> <p>□仙台大学との連携の成果が運動能力テストに着実にあらわれており評価したい。今後ぜひ、大河原南小学校や金ヶ瀬小学校に拡充し、町全体として運動能力の向上に期待している。</p> <p>□給食残量が減少傾向であることは喜ばしい。今後も献立を工夫するとともに給食指導や食育の授業などを通して、目標値達成を目指してほしい。</p> <p>■学習でのタブレット使用の推進定着との関連からも、状況に応じたルールの見直しを検討する時期にきているかもしれない。</p>		

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

◆基本的方向9 【学力】確かな学力の育成 施策

- (1) 「指導と評価の一体化」を目指す学習活動の充実
- (2) 活用する力を育成する取組の推進
- (3) 言語力の育成・言語活動の充実
- (4) 国際理解教育、情報通信教育の推進

主な具体策

- ④ 「対話的学び」のある授業づくりと「学習評価PDCAサイクル」の確立による学力

向上策

- ④④全国学力・学習状況調査の全国平均正答率を上回るための方策
- ④⑤おおがわら算数チャレンジ・数学オリンピック事業の継続と他教科への発展
- ④⑥暗唱読本等を活用した言語活動の充実
- ④⑦外国語教育充実に向けたALT配置の継続と活用の充実
- ④⑧ICT教育への先進的取組（タブレットPCの活用促進）

令和4年度重点的取組

施 策	(1) 「指導と評価の一体化」を目指す学習活動の充実
主な具体策	④③「対話的学び」のある授業づくりと「学習評価PDCAサイクル」の確立による学力向上策
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「対話的学び」を取り入れ、授業の改善を図る。 ・学習評価PDCAサイクルを確立し、教員の指導力向上と児童生徒の学力向上を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・町標準学力調査等を取り入れた学習評価表の作成と実践を行う。 ・年3回の学力向上推進委員会の開催を通して、1年間のスパンを踏まえた学習評価PDCAサイクルを確立する。 ・授業で全国学力・学習状況調査問題集（過去問）の活用を図る。 ・少人数学級の実現や教科による少人数学習等のきめ細かな指導をおこなうため、町内小中学校に任期付き教員（町採用教員）を継続配置する。
施 策	(4) 国際理解教育、情報通信教育の推進
主な具体策	④⑦外国語教育充実に向けたALT配置の継続と活用の充実 ④⑧ICT教育への先進的取組（タブレットPCの活用促進）
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語・外国語教育、国際理解教育の充実および情報通信教育の推進により、子供たちが次代をたくましく生きるための素地を育てる。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校における英語・外国語活動の充実に向け、継続してALTを配置する。 ・外国の学校との交流活動を促進することで、多様な価値観や広い視野をもった人材を育成する。 ・英単語ノート「小学生の英単語」を新規に作成し、小学5、6年生での活用を図る。 ・タブレットPCの活用やプログラミング教育を推進することで、児童生徒の情報活用能力や論理的な思考力を向上させ、「主体的で深い学び」による学力向上の一助とする。 ・タブレットPCの持ち帰りについて本格的に実施し、家庭での学習支援に生かす。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2022年度)	目標値 (2022年度)
1	全国調査の平均正答率の乖離をプラスにする(国語, 算数・数学の乖離平均) 【小6、中3対象】	(2019年度) 小 +2.3 中 -1.8	小 +1.4 中 ±0	小 +0以上継続 中 ±0
2	算数チャレンジ・数学オリンピック事業の継続・発展	実施	実施	理科・英語等での取組実施

3	ALT 招致人数	2人	3人 (民間委託)	3人
4	ICT 機器の整備状況	児童生徒 6.2 人 に 1 台	児童生徒 1 人 に 1 台	児童生徒 3 人 に 1 台

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国調査の平均正答率は、小学校では 2019 年度時点よりもプラスの幅は縮まったものの、小中学校とも目標に達することができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町算数チャレンジ・数学オリンピックのほかに、理科や英語等での取組拡充については実施に至らなかった。 								
内部評価	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
外部評価	<p>◇「対話的学び」で授業改善することがベースとなっている意義は実に大きいです。その上で、学力向上推進委員会を核として、町全体がPDCAサイクルを意識しての学習指導を継続することで、確かな学力が着実に身につけて来ていることが「達成値」に表れています。</p> <p>◇新規に「小学生の英単語」を作成する、町としての意気込みを高く評価します。少しでも学力を高めようという先生方の強い願いは、必ずや、児童・生徒の心に到達するに違いないと思います。</p> <p>◆町算数チャレンジ・数学オリンピックを継続して行っていることは、児童・生徒の力となって表れています。一つの事業で大きな成果が見えていますので、今は、この事業を更に充実することに努めることで、児童・生徒の力量アップに発展するものと思います。従って、理科や英語等での取組拡充は、もう少しゆとりが出て来てからでも良いのではないかと考えます。</p> <p>□全国学力状況調査の平均正答率が小中学校とも目標値を達成できたことを大いに評価する。「対話型学び」を取り入れるなど授業改善に努めた結果であると考えられる。今後も期待している。</p> <p>□町独自の「小学生の英単語」を新規作成したことは素晴らしい。今後大いに活用することを期待している。</p>								

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

4. 学校・教職員の姿

【目標】信頼される学校・教職員

◆基本的方向10 学校組織力の向上

施 策

- (1) チーム学校による創意・活力に満ちた学校づくりの推進
- (2) 保・幼・小・中連携教育，異校種間連携の推進
- (3) 学校・保護者・地域による学校評価の推進

主な具体策

- ④9カリキュラム・マネジメントによる開かれた教育課程の推進
- ⑤0新学習指導要領実施に向けた，学校体制の確立
- 51 幼・保・小連携による接続カリキュラム，スタートカリキュラムの作成
- 52 コミュニティ・スクール体制の構築 ⇒ 生涯学習との連携

令和4年度重点的取組

施 策	(2) 保・幼・小・中連携教育，異校種間連携の推進
主な具体策	51 幼・保・小連携による接続カリキュラム，スタートカリキュラムの実践
目的・目標	・幼稚園・保育所・小学校間での連携を密にするとともに，小学校におけるスタートカリキュラムを実施することで小1プロブレムを緩和する。
重点的取組	・小学校新1年生がスムーズに学校生活や学習活動に入れるよう，小学校におけるスタートカリキュラムを年間計画に位置付け実施する。

施 策	(3) 学校・保護者・地域による学校評価の推進
主な具体策	52 コミュニティ・スクール体制の構築
目的・目標	・学校・保護者・地域の連携による「地域とともにある学校づくり」を推進するため，令和3年度に先行設置した大河原南小学校に続き，町内すべての小中学校においても令和4年度にコミュニティ・スクールを設置する。
重点的取組	・既存の組織や仕組みをもとに，コミュニティ・スクール事業の推進及び体制の構築を図る。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2022年度)	目標値 (2022年度)
1	学校評価アンケートによる「各学校の「よく当てはまる」の回答」の全平均率	34.1%	38.1%	45%
2	町内英語・外国語担当者会，研修会の実施	—	実施	2018年度
3	接続カリキュラム，スタートプログラムの作成・実施	—	実施	実施
4	コミュニティ・スクール体制の確立	—	5校	5校

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度から町内すべての学校にコミュニティ・スクールが導入され、年2～3回の学校運営協議会を開催した。地域と一体となった取組を継承・深化しつつ、地域とともにある学校づくりを進めている。 町外国語活動・外国語担当者会については、3年ぶりに外部講師を招聘しての研修会を実施し、英語の指導力向上に有意義な研修にすることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校の学校評価アンケートにおいて「よく当てはまる」と回答した割合の全平均38.1%となり、昨年度の31.7%を超えたものの、目標とする45%に届かなかった。 学校ごとに「分かりやすく、意欲の持てる授業になっている」「不登校の予防に努めている」「基本的な生活習慣が身に付いている」「身の回りの整理整頓ができる」「大河原ルールを守っている」など、肯定的な回答の割合が少ない項目については今後改善を図りつつ、学校の取組について積極的な情報発信に努める。 	
内部評価 B	A <input checked="" type="radio"/> B C D	目標を上回って達成した 目標をほぼ達成した 目標をやや下回った 目標を下回った
外部評価 B ^o B	<p>◇コミュニティ・スクールが、町内全ての学校で導入されたことは、実に素晴らしいです。地域を挙げて、子供を育てる体制が整ったものと考えます。ただ多忙な毎日の中での運営は厳しいものがありますが、軌道に乗れば、相互理解が進み、教育効果は大きくなるものと期待しております。</p> <p>◇学校評価の「よく当てはまる」が、昨年比6.4ポイント増は、学校理解が増加し、学校運営の好循環の到来を意味するので、今後の教育活動が更に明るくなったと思われます。</p> <p>□町内5校全てにおいて、コミュニティ・スクールが導入され、学校・保護者・地域の連携による学校づくりを進めていることは素晴らしい。</p> <p>□外国語活動・外国語担当者会で3年ぶりに外部講師を招聘し、研修会が開催できたことは大変良かった。研修を生かし英語の指導力のさらなる向上を期待している。</p> <p>■様々な学校での活動に対し理解を深めてもらえるよう、学校だよりやホームページなどを大いに活用してほしい。</p>	

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

◆基本的方向 1 1 教職員の資質・指導力の向上

施 策

- (1) 町内教職員研修の充実
- (2) 校内実践研究の推進と各種研修機会提供の充実
- (3) 教職員の多忙軽減の推進

主な具体策

- 53 町内教職員研修の継続実施
- 54 「教師指導力向上研修」の実施
- 55 ICT機器等の整備，部活動支援による業務改善，給食管理システムの導入
(統合型校務支援システム，給食費の公会計化の実現)

令和4年度重点的取組

施 策	(2) 「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりに向けた校内実践研究の推進と各種研修機会提供の充実
主な具体策	54 「教師指導力向上研修」の実施
目的・目標	各学校での「教師指導力向上研修」の継続実施により，「対話的な学び」を成立させる聴き合い学び合う授業が展開できるよう校内実践研究の推進と教職員研修の充実を図る。
重点的取組	・各学校において，大学教員等を招聘し教育課題解決に向けた校内研修会を実施することで教員の指導力向上と児童生徒の学力向上を図る。

施 策	(3) 教職員の多忙軽減の推進
主な具体策	55 ICT機器等の整備，部活動支援による業務改善，給食管理システムの導入
目的・目標	・教職員の働き方改革の一助として，ICT機器の活用推進，ICT支援員や部活動支援員の継続配置，給食管理システムの導入，2学期制への移行等により，業務の改善・軽減を図る。
重点的取組	・ICT支援員の継続配置やICT活用研修会を通じて，教員のスキル向上を目指し，児童生徒一人一台のタブレットPCの有効な活用促進を図る。 ・統合型校務支援システムの活用による校務の省力化や部活動支援員の継続配置により，教職員の業務の改善をさらに推進する。 ・給食管理システム導入により，教職員による給食費の集金等の業務を軽減する。 ・2学期制の利点を生かし，事務的な業務の軽減を図る。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2022年度)	目標値 (2022年度)
1	学校における教育の情報化の実態等に関する調査「教員のICT活用指導力の状況」(できる)	(14.9%) 20年度実績 15.1% 21年度実績 22.3%	20.9% (22年度末)	30%

2	時間外勤務の縮減 (各校種 1 日あたりの平均時間)	(’17 年度予想値) 小 1 時間 5 4 分 中 3 時間 2 0 分 (’21 年度実測値) 小 1 時間 4 7 分 中 2 時間 3 1 分	小 1 時間 4 3 分 9.6%縮減 (17 年度比) 中 2 時間 0 4 分 38.0%縮減 (17 年度比)	20%縮減
3	ICT 校務支援システムの普及率	20%	100%	100%

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 4 年度から給食の公会計化を行い、教職員の負担軽減を行った。 令和 4 年度における月 8 0 時間を超える教職員は、1 4 名（全体の 9.3%）となり、令和 3 年度・令和 2 年度の 3 1 名（全体の約 2 1%）と比べ半数以下となった。 統合型校務支援システムなど ICT の活用を継続し、事務処理の軽減を図っている。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT の活用については日々アップデートする必要がある、「できる」と回答した教員の割合は令和 3 年度の実績よりも減少した。ICT 支援員の活用を継続し、教師のスキル向上につなげていきたい。 		
内部評価	A	目標を上回って達成した	
B	B	目標をほぼ達成した	
	C	目標をやや下回った	
	D	目標を下回った	
外部評価	<p>◇新規に、令和 4 年度から給食の公会計化を行い、給食費の集金事務から、教職員を開放した意義は、歴史的事業として未永く高い評価を得るものと思います。生活苦の家庭から給食費を集める精神的、物理的束縛からの開放は、教職員の重荷を取り除き、安心して勤務できる要素になったものと考えます。</p> <p>◇教職員の事務的負担軽減のため、統合型校務支援システムを 100% 導入したことにより、教職員が心のゆとりを生み出し、残業時間を半分以下に減少させる効果があったことは、大きな喜びとするところであります。</p> <p>□給食の公会計化による、教職員の負担軽減を大いに評価する。統合型校務支援システムなど ICT 活用を継続し、教職員の事務処理の軽減化を図るなど、働き方改革の先進的な取組を評価する。これらのことが時間外勤務の縮減にも繋がっていると思われる。</p>		
A			

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

◆基本的方向 1 2 安心して学べる教育環境づくりの推進

施 策

- (1) いじめ・不登校対策，教育相談等の充実
- (2) 学び支援のためのセーフティネットの構築（就学援助，育英・奨学金等）
- (3) 学校危機管理体制の充実(防災教育)
- (4) 家庭・地域への情報発信の推進
- (5) 教育施設の適切な維持・管理と適切な運用

主な具体策

- 56 スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー活用の充実
- 57 おおがわら子どもの心のケアハウス事業の継続
- 58 各種援助・支援等の適正受給
- 59 安全担当主幹，防災主任による学校危機管理マニュアルの整備，防災訓練，体制の確立
- 60 学校だより，ホームページ，緊急メール配信，広報おおがわら等による積極的な情報発信
- 61 学校施設の老朽化対策と少子化に伴う施設の適切な運用についての検討

令和4年度重点的取組

施 策	(1) いじめ・不登校対策，教育相談等の充実
主な具体策	56 スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー活用の充実 57 おおがわら子どもの心のケアハウス事業の継続
目的・目標	・スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー，ケアハウス事業を継続し，不登校等に悩む児童生徒，保護者の不安を軽減するとともに，復帰に向けた学力の保障を行う。
重点的取組	・学校とスクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー，ケアハウス間での連携をさらに密にし，不登校の予防と早期対応を目指す。 ・心のケアハウス事業を継続し，不登校児童生徒への支援の中核となる「教育支援センター化」を進めるとともに，多様な学びの場を提供し，児童生徒の学力の保障を軸とした，学校復帰を目指す。

施 策	(5) 教育施設の適切な維持・管理と適切な運用
主な具体策	61 学校施設の老朽化対策と少子化に伴う施設の適切な運用についての検討
目的・目標	・老朽化した学校施設について，優先順位をつけ改修や長寿命化対策等を行う。
重点的取組	・大河原中学校体育館及び防災備蓄倉庫の完成に伴い，校舎裏の旧体育館の解体工事及び校舎前の屋外環境整備を行う。 ・各小中学校の空調設備設置工事を行う。 ・適正規模の学校の在り方を検討する。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017 年度)	達成値 (2022 年度)	目標値 (2022 年度)
1	おおがわら子どもの心のケアハウス事業の継続	県補助事業による実施	県補助事業(人件費8/10)により継続	町独自財源による継続実施

2	町内小中学校の不登校者出現率の縮減	小 0.15% 中 4.14% '19年度実績 小 2.08% 中 4.30% '20年度実績 小 2.36% 中 4.20% '21年度実績 小 2.15% 中 6.04%	小 1.37% 中 6.19% (R5.1月末)	小 0%に近づける 中 3%以下に
3	各学校区における地域連携防災訓練の実施満足度	34.9% '19年度実績 31.7%	実施	40%
4	学校評価アンケートによる「学校からの情報提供等」(各学校のよくあてはまる等の項目)	41.5% '21年度実績 37.0%	38.1%	50%
5	建設40年を経過する学校施設の大規模改修・長寿命化の実施	40%	R4年度 大中体育館 増改築外事業	60% 大中体育館等

成果課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での不登校児童数が減少できた。 ・令和4年度からの試みで、SSWや在学相談員が中心となって「ほっとタイム」と称して、不登校の子どもを持つ親の交流会を年5回(2ヶ月に1度のペース)実施した。子どもへの声かけの方法やイライラのコントロール方法などを学びながら、SSWやSCを交えたフリートークで保護者の悩みを軽減した。 ・大中旧体育館の解体、校舎前駐車場の整備を行った。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の不登校生徒数は、昨年度よりも更に増加してしまった。昨年度、6年生の中に不登校児童が多く、中学校全体として増加することになった。 								
内部評価	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								

外部評価	<p>◇新たに「ほっとタイム」を立ち上げ、年5回もの交流会を企画された町全体の取り組みにより、保護者の悩みの軽減に努めたチャレンジ精神に拍手をおくりたいです。</p> <p>◆不登校人数の増減について、一喜一憂すべきではなく、コツコツと対策を立て実行すべきではあるが、小学校での減少に着目し、その対応について全体で確認し、喜び合うことが次につながるものと考えます。</p> <p>◆各学校が工夫して作成しているホームページは、児童・生徒の動きや学校行事の様子がとても分かりやすく表現されています。残念なことは、前年、前々年の様子を見ることができないことです。毎年ホームページを蓄積すれば、学校の歴史の記録にもなるので工夫していただければありがたいです。</p> <p>□不登校の子供を持つ親の交流会を実施していることは素晴らしい。保護者に寄り添い悩みが少しでも軽減できるよう期待している。</p> <p>□小学校での不登校児童数が減少したことは大変嬉しい。今後も小さなことを見逃さず全職員で不登校の予防と早期対応に配慮してほしい。</p> <p>■児童生徒の安全や学校が地域で果たす役割等も考え、今後も老朽化した施設の計画的改修や長寿命化に努めてほしい。</p>
B	

凡例

- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見